3－4．光をつなぐ

まちの風景にとって街路照明は、夜ばかりでなく、昼間のまちの風景にとって、大変重要な役割を持っています。長い通りで連続して立つ照明は、まちの雰囲気づくりに貢献し、まちの風景に秩序をあたえます。

私たちは、タテ軸・ヨコ軸それぞれにふさわしい照明を提案します。現在バラバラな照明を、品川宿らしく統一したものにしていきたいと考えます。

●ヨコ軸の光

●タテ軸の光

4.界隈空間の形成

ここでは、各計画の継続および実現にむけて、具体的な条件の整理と、関係各機関への要望・調整事項の整理を踏まえて、計画案の提示を行います。

－1.水辺空間の活性化
1）水辺空間活性化の目的
2）水辺空間の活性化計画一覧図
3）アプローチ道路を考える
4）水辺空間のイメージ（1）目黒川遊歩道整備
（2）東品川海上公園内の計画
（3）水上レストラン
（4）船溜まり
－2.路地を結ぶ計画
1）緑でつなぐ
2）東海道とお寺神社とをつなぐ

－3.坂道を結ぶ計画

4－1．水辺空間の活性化とは？

『かっぱ祭り』はこの地域が海辺のまちであった記憶を、今に伝えています。水辺空間の活性化とは、海辺と共に生きてきたこのまちが、再び自分の手足で水に触れることのできる水辺空間を取り戻すための計画です。計画は大きく４つに分けることができます。

水辺空間の活性化　●＝まちの提案／○行政の整備事業

環境

○ 水質の浄化（城南三河川清流復活事業H7 年 3 月通水）

水辺空間

● 目黒川緑道整備の桜並木の提案
● 東品川海上公園整備への提案
（桜の名所・カヌー、ボート小屋・水上レストラン）
● 船溜まり（東品川一丁目・北品川一丁目）の保存
○ 水上バスの運行・連携

アプローチ 回遊性

● 東海道とつなぐ街路整備
● サインの整備

イベント 啓蒙活動

● いかだ・カヌーレースの開催
● 目黒川サミットの開催
● ゴミ拾いウォークの開催

時間の流れが海辺との距離をつくりましたが、このまちにはいくつかの運河や目黒川といった多くの水辺があります。これらはまちの重要な宝物の一つです。計画はこの水辺とその周辺が舞台です。

水辺マップ　－■部が水辺

4－1．1）水辺空間の活性化の目的

水辺空間の活性化の目的は、生活空間としての水辺をとりもどすことにありますが、その実現のためにはひとつひとつ段階をふまなければなりません。

目的　……　暮らしの中の水辺をとりもどす

『水辺空間の活性化』実現のための段階

1.まちづくり計画書をつくる（この計画書です）

協議会で話し合った考えを具体的に示します。

2.行政への要望　（短期的計画）

整備レベルが行政によるものでかつ、早期に着手可能な計画については、その計画を協議会から要望として行政に働きかけます。

3.イベントを開く　（1）いかだ・ボートレース

楽しみながら水辺の活性化を実現していこうという計画です。将来提案が実現した際には、恒例のイベントに昇格します。

2.イベントを開く　（2）ゴミ拾いウォーク

協議会はもとより、さらに地元の関心を高めるためにイベントを開きます。

2.イベントを開く　（2）目黒川サミット

目黒区、世田谷区にも働きかけて、河川沿いのまち合同で話し合う場をつくります。

3.4のイベントは、計画の内容と進み具合を発表する場ですが、行政に対して強くアピールする機会でもあります。

3.行政への要望　（中・長期的計画）

整備レベルがまち・協議会の参入を必要とするもので、中・長期的な計画については、個別にさらに段階的に行政に要望または調整していきます。

4.協議会の整備・運営への参加

整備が具体的になりますと、整備資金および運営面について、計画書の再確認が必要になってきます。

8.『暮らしの中の水辺をとりもどす』の実現

4－1．2）水辺空間の活性化計画一覧図

計画を地図上に落としてみました。以下の通りです。

品川駅東口周辺
開発計画
至　品川駅
京浜急行
御殿山
北品川
船溜まり
八ツ山通り
JR
至　大崎
天王州アイル
●目黒川遊歩道を
桜並木にする計画
山手通り
新馬場
東品川海上公園
目黒川
●海上公園につなぐ
ボードウォークの計画
●水上バスと連動する
ミニ水上交通の計画
（カヌー・ボート）
●大井町方面からつなぐ
道路
国道15号
東海道
元なぎさ通り
旧海岸通り
海岸通り
青物横丁
大井町
凡　例
協議会で提案し、
区に要望すること
行政による計画
水上バスルート整備
品川水族館

目黒川では、行政によって、緑道整備事業・清流復活事業が進められています。わたしたちはその整備について「桜をつなぐ」計画に則って、以下の計画を行政に提案します。これによって目黒川沿道が、東品川海上公園を起点に品川宿、目黒区、世田谷区と上流に向けて桜でつながることが実現します。

－計画の概要

●行政への要望 ――・桜並木

●協議会の整備 ――・床几（お休み処）の設置

桜並木のイメージ図

神戸：生田川の桜並木のライトアップ

この公園は新しい品川の名所となってもらいたいものです。そのための楽しい施設を行政に提案します。もちろん、まちとしてできることは協力していきます。

－計画の概要

●行政の計画	・公園整備
	・水上バスの整備
●行政への要望	・カヌー・ボートの拠点（スロープ・小屋）
	・桜を植えて名所にする
	・目黒川緑道とつなぐボードウォークの整備
●協議会の整備	・水上レストランの計画

東品川海上公園の計画

カヌー乗り場のイメージ図

ボードウォークのイメージ図

わたしたちは、東品川海上公園の中に水上レストランを是非とも整備して運営していきたいと考えています。これは水辺空間の核施設となるだけでなく、将来のまちづくり会社の設立とともに、わたしたちのまちづくりが未来へと継続するための鍵を握る施設だからです。行政に時間をかけて要望しながら実現にむけて進めていきます。

計画の概要

●行政への要望　　・水上レストランの計画の許可

●協議会の整備　　・水上レストランの計画、整備、運営

水上レストランのイメージ図

水上レストランの事例

京都・鴨川沿いの床

北品川橋を渡ると、道の両側に船宿が多く見られます。このあたりは、利田新地とよばれ、寄洲に築造された埋立地の跡です。今ではその周囲もすっかり埋め立てられ、この船溜まりのみが往時の風情ある面影を漂わせています。

わたしたちは、この歴史の遺産とも言うべきこの風景を大切に保存していきたいと考えています。また、この船溜まり沿道も、目黒川同様に、桜の並木をつなげていくように行政に提案したいと考えます。

●守りたい風景

4－2．路地を結ぶ計画

品川宿の路地は、由緒ある名前がついていたり、生活のにじみでた空間としてまちの貴重な空間です。路地では、思い思いの植木が置かれたり、井戸のある路地のような今では数少なくなった風景が残っています。

わたしたちは、こうした緑に代表される路地から生まれたコミュニケーションの大切さを次の世代にも伝えていきたいと考えます。まち歩きマップで住む人の暮らしに配慮した路地や横丁の紹介をする・路地名称をまちかどサインで整備する・「路地の緑コンクール」の開催などを通して、路地を軸として形成されてきたコミュニケーションの輪がさらに拡がって、まちの魅力が高まることを望みます。

路地は、生活の気配がにじみ出した空間です。これは、都心には少なくなった貴重なうるおいの空間といえるでしょう。現在でも、すでにまちの人によって路地に様々な趣向をこらした植木が置かれています。この植木は、まちの人のもてなしと遊び心のあらわれです。

わたしたちは、今以上に路地の緑が増えていくことを願い、「路地の緑コンクール」等を催して楽しみながら魅力を高めていくことを考えています。

また一方で、路地は防災上では危険な箇所として位置づけられることもあります。コンクリート塀などは可能なところから生け垣にするようにまちに働きかけていき、身近な防災対策としたいと考えます。

●路地の緑

品川宿の路地のなかでも参道としての路地は歴史あるたたずまいを見せる貴重な風景です。寺社は品川宿の精神を支える神聖な空間です。と同時に広い境内は、まちの防災に大いに貢献しています。わたしたちは、寺社と話し合いながらこの貴重な空間と東海道をつなぐ路地を、特に質を高めて整備することを提案します。また、貴重な空間である路地は、コミュニティの面では東海道と密接に結びついていますが、目に見える風景として、もっと路地存在をわかりやすく整備する必要があります。

この計画は、「石をつなぐ」「まちのサイン計画」計画と連動します。

路地の存在と名称が目に見えてきた時、東海道品川宿周辺の奥深い魅力がより発揮されるでしょう。

●整備イメージ図

路地の石畳

東海道とつなぐ道路の舗装

まちかど誘導サイン

4－3．坂道をつなぐ計画

品川宿には、路地と同様に由緒ある名前の坂道が数多くあり、まちの人にいまもなお語り継がれています。まちのサイン計画でその名称やそこに秘められた歴史的な物語を発掘して、紹介し次の世代へとさらに語り継いでいこうと考えています。